

令和元年度 学校評価自己評価計画(中間) No.1

海田町立海田東小学校

学校教育目標 「考え実践する 海田東っ子 笑顔・あいさつ・思いやり (EAO) - 『よく学び』『よく遊び』『やさしく強く』」 育成したい資質・能力 「深く考える力」「主体的に学ぶ意欲」「自己を理解する力」

中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価項目	指標	中間報告までの取組 (8月まで)	評価基準				評価	◇結果の分析と◆今後の取組	
						A	B	C	D			
						目標達成	ほぼ達成	もう少し	できていない			
知	主体的・協働的に学ぶ意欲をもつ児童の育成  自分の考えを深めることのできる児童の育成	・「全国学力・学習状況調査」(6年)、「海田町標準学力調査(NRT)」(2～5年)の結果をふまえた学力向上の取組。  ・思考力を深める授業づくり(話合いの充実)	①「海田町標準学力調査」(CRTの結果)	・「海田町標準学力調査」全国平均正答率との比較(全国平均正答率以上の学年数)。	①学力調査 ・調査問題を分析し、改善計画を立て、日々の学習指導に生かしている。 ・のびっこの一か月の計画を立て、学年で課題となる問題に取り組んでいる。  ②考えを深める ・思考を深めるため自分の考えをしっかりともち、互いの考えを交流することができるような話し合い活動の場の工夫や発問により思考を深める指導方法について、研究協議会で分析を行っている。	全学年	5学年	4学年	4学年未満	C	① ◆CRTへ向けて、NRTの各学年で分析したことを共有し授業改善を行う。学年で付けたい力を明確にし、系統を意識した指導を行っていく。30%未満の児童への補充を行う。  ② ◇児童アンケート79%、教師アンケート71%、平均75%であった。個人やペアトークだけでなく交流の場を意図的に仕組んだり、切り返し発問でねらいを深めたりすることが難しかった。 ◆共通の視点をはっきりさせて取り組むことや取組を学年で共有する。研究通信をもとに学年で共有化して取り組む。ノート指導を学校で統一して行う。	
			②思考力を深める授業の実施	・児童アンケートにおける、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしている児童の割合。 ・教師アンケートにおける、友達と話し合うなど、考えを深めたり、広げたりする授業を行っている教師の割合。		85%以上	80%以上	75%以上	75%未満			
徳	思いやりを持ち自分や友だちを大切にできる子	・あいさつ運動 ・返事の指導  ・言葉遣いの指導  ・はきものそろえの指導	③あいさつ運動の実施  返事の指導の取組	・児童及び教師アンケートにおける相手に聞こえる声で、あいさつや返事をしている児童の割合。 ・保護者・地域アンケートにおける「わが子(海田東小児童)は相手に聞こえる声であいさつや返事をしている」と考えている保護者の割合。	③あいさつ運動 ・朝のあいさつ運動に、学年や児童委員会で参加した。  ④言葉遣いの指導 ・授業や学校生活の中で、言葉遣いの指導に取り組んできた。  ⑤トイレのスリッパそろえの指導 ・各学級・美化委員会でチェックを行い、指導してきた。  ⑥「よいところ見つけ」の実施 ・行事ごとに自分や友達のよいところをカードに書いて、放送で紹介したり校内で掲示したりした。	85%以上	75%以上	50%以上	50%未満	B	③ ◇アンケートの結果は、児童88%、教師80%、保護者80%、地域76%、平均は、81%であった。あいさつのレベルを設定し、児童は校内では進んでいるが、それが地域へ広がっていない。 ◆「あいさつ木(き)ら木(き)ら」活動であいさつができていない児童を評価し、進んであいさつをする児童を増やす。  ④ ◇アンケートの結果は、児童84%、教師59%、平均は72%であった。相手や場に応じた正しい言葉遣いができず、友達との会話と同じ言葉遣いをする児童がいる。 ◆教師が意識的に、継続的な指導をしていく。できていないときは、言い直しをさせて、正しい言葉で終わらせる。	
			④言葉遣いの指導の取組	・児童及び教師アンケートにおける相手に応じて、丁寧な言葉や敬語を使って話ができる児童の割合。		85%以上	75%以上	50%以上	50%未満			C
			⑤トイレのスリッパそろえの指導の取組	・児童及び教師アンケートにおけるトイレのスリッパをそろえている児童の割合。		85%以上	75%以上	50%以上	50%未満			B
	自他の良さを認め合うことのできる児童の育成	・よいところ見つけ ・教師の児童への肯定的関わり	⑥行事等における「よいところ見つけ」の取組  児童の自己肯定感を高める日常の取組	・児童アンケートにおける、自分には良いところがあると考えている児童の割合。	85%以上	75%以上	50%以上	50%未満	B	⑤ ◇アンケートの結果は、児童87%、教師70%、平均は79%であった。トイレのスリッパは、大体そろってきている。場所によって差がある。 ◆校内放送でトイレのスリッパについて呼びかける。学級でも、スリッパの使い方やそろえ方について指導する。  ⑥ ◇児童アンケートの結果は、80%であった。放送で紹介することで、児童の意識が高まった。 ◆「よいところ見つけ」だけでなく、学級の帰りの会や道徳の時間などでも、自己肯定感を高める取組を行う。		

令和元年度 学校評価自己評価計画(中間) No. 2

海田町立海田東小学校

学校教育目標 「考え実践する 海田東っ子 一笑顔・あいさつ・思いやり(EAO) - 『よく学び』『よく遊び』『やさしく強く』」 育成したい資質・能力 「深く考える力」「主体的に学ぶ意欲」「自己を理解する力」

中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価項目	指標	中間報告までの取組(8月まで)	評価基準				評価	◇結果の分析と◆今後の取組
						A 目標達成	B ほぼ達成	C もう少し	D できていない		
体	進んで健康・安全を考える子	・基本的な生活習慣の徹底 ・外遊びの充実	⑦ 基本的な生活習慣徹底のための指導の取組	・無欠席児童の割合<学期ごと>。	⑦基本的な生活習慣の徹底 ・1学期終わりに、無欠席の児童を放送で紹介した。 ・生活リズムカレンダーで生活リズムの定着を図る。	65%以上	60%以上	50%以上	50%未満	B	⑦ ◇1学期末現在、無欠席児童 328名,64%であった。熱中症対策として、水分の補給やエアコンの積極的使用を促したことがよかった。 ◆皆勤賞の表彰があることや結果の掲示の仕方を工夫するなど児童へのアピールを強めていくことで児童の意欲を高めて取り組むことが必要である。 ◆生活リズムカレンダーにもっと児童に意欲的に取り組ませる工夫が必要である。
			⑧ 外遊びの指導の取組	・児童及び教師アンケートにおける、休憩時間に外遊びをしている児童の割合。	⑧外遊びの指導 ・水曜日外遊びの日として、体育委員会による呼びかけ。 ・ロング昼休憩の実施 月1回	90%以上	85%以上	80%以上	75%以上	D	⑧ ◇水曜日に外遊びをする児童の割合は高く、定着してきている。 ◆児童教師アンケートの結果平均は、79%であった。水曜日はほぼ全員が外遊びをしているが、ほかの曜日に外で遊ぶように呼び掛けていく必要がある。ただ、暑い日が続くと外に出にくくなる。
開	地域に開かれた学校	・避難訓練等における事前・事後指導の徹底 ・保護者・地域と共に創る授業の創造 ・情報の発信(HP, 学校・学年だより) ・家庭連携の充実(家庭訪問, 教育相談)	⑨ 防災教育の実施	・児童及び教師アンケートにおける、自分の命を守るための安全な行動の仕方が分かっている児童の割合。	⑨防災教育の実施 ・避難訓練の実施。 ・学級活動で防災についての授業を全学年実施。	85%以上	75%以上	50%以上	50%未満	A	⑨ ◇児童教師アンケートの結果、平均91%であった。避難訓練とは別に、全学級で避難行動の授業を実施したことで、児童の意識が高まった。 ◆防災にかかわる取り組みをどのように継続していくかを考える必要がある。ほかの地域で災害が起こった時などは、学級や朝会で話題にするなど、児童に意識をする場面を増やしていくことが必要である。
			⑩ 保護者・地域参加型の授業の実施	・保護者・地域の方参加型の授業を各学年1回以上実施。	⑩保護者・地域参加型授業 ・3年生は「総合的な学習の時間」に「ふしぎ発見海田町」の学習で「西国街道海田市ガイドの会」の方と海田町のおすすめスポットを巡り、説明していただいた。5年生も「総合的な学習の時間」に防災教室として役場の職員の方から災害時の行動などについて話をいただいた。	全学年1回以上	全学年1回	4学年	4学年未満	D	⑩ ◇2学年が「総合的な学習」の時間に2回行った。 ◆各学年計画通り1回以上行う予定である。
			⑪ HP, 学校・学年だよりによる情報の発信	・HPを月2回以上更新。 ・学校だより, 学年だよりを月1回以上発行。	⑪情報の発信 ・「総合的な学習の時間」や「外国語」など授業の様子等をHPや通信で積極的に発信した。	90%以上	85%以上	80%以上	75%以上	A	⑪ ◇ICT担当が教職員に原稿を呼び掛けることで、授業の様子等をHPで積極的に発信することができた。 ◆発信したいテーマをもって原稿を依頼するなど、意図的な発信を行ってきたい。
			⑫ 意図的, 計画的な家庭訪問の実施 スクールカウンセラー訪問, 相談窓口等の保護者への周知	・保護者アンケートにおける, 学校の取組を信頼できると考えている保護者の割合。	⑫家庭連携の充実 ・家庭訪問実施の基準を設け, 意図的, 計画的な家庭訪問を行った。 ・スクールカウンセラー訪問を学校だより等で継続して周知した。	85%以上	75%以上	50%以上	50%未満	A	⑫ ◇保護者アンケートの結果は97%であった。家庭訪問実施の基準に従い, 計画的に家庭訪問を行ったり, スクールカウンセラー訪問を周知することができた。 ◆家庭訪問だけでなく, 日常の様子について電話や連絡帳を通して伝えていくことも継続していく。